

令和3年度府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

- 1 日 時 令和3年11月24日(水)
午後3時00分～午後4時30分
- 2 場 所 安芸府中生涯学習センター
くすのきプラザ 1階 ギャラリー
- 3 出席委員 (8人)
座長 上之園 公子〔学〕
委員 中村 順子〔産〕
委員 山田 和孝〔官〕
委員 八谷 浩平〔金〕
委員 原田 悟〔労〕
委員 堀部 明美〔住〕
委員 田中 千里〔住〕
委員 森岡 小津恵〔住〕
- 4 欠席委員 (1人)
委員 益村 泉月珠〔言〕
- 5 議事次第
1) 開会
2) 町長あいさつ
3) 座長選出
4) 府中町人口ビジョン(2021年改訂版)及び第2期
府中町まち・ひと・しごと創生総合戦略について
5) 閉会
- 6 町出席者
町 長 佐藤 信治
副町長 齋藤 哲也
教育長 新田 憲章
(各部長)
総務企画部長 増田 康洋
総務企画部参事 屋敷 学
財務部長 胡子 幸穂
町民生活部長 金光 一隆
福祉保健部長 山西 仁子

建設部長 井上 貴文
教育部長 榎並 隆浩
消防長 新宅 和彦

(事務局) 政策企画課長 土井 賢二
政策企画課課長補佐 高橋 幹
政策企画課企画調整係長 西山 晋

7 傍聴者数 10人

8 議事の内容

(午後3時00分開会)

1) 開会

○政策企画課長

皆さん、こんにちは。本日は、お忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、「府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議」を開会いたします。

なお、議事の進行につきましては、規定により委員の中から座長を選出いただき、座長に議事を進めていただくようになっていますが、7月に委員の改選があり、本日はまだ座長が決まっておりませんので、座長選出までを事務局で進めさせていただき、そこからの議事につきましては、座長にお願いをしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

2) 町長あいさつ

○政策企画課長

それでは、事前にお配りしております「会議次第」に沿って進めてまいります。

まず初めに、開会にあたり、佐藤町長より、ご挨拶を申し上げます。

○町長

皆さん、こんにちは。府中町長の佐藤でございます。本日のご参加ありがとうございます。令和3年度府中町まち・ひと・しごと創生有識者会議の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

先ずもって、この度は有識者会議委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

なお、本来ですと、辞令書を直接手渡しで交付すべきところですが、委嘱日から本日の会議まで日数を要したことから、郵送にて送付させていただきました。ご理解の程、よろしくお願いたします。

本会議は、人口減少対策や東京一極集中是正などを進めるための府中町版の「総合戦略」策定に際し、産・官・学・金・労・言の各分野の関係者や、住民の代表など、様々な分野でご活躍されている委員の皆様からご意見・ご提言をいただくことを目的に設置いたしました。委員の皆様におかれましては、どうぞ遠慮なく忌憚ないご意見をいただければと思います。

さて、府中町では、今年度から「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」をスタートさせました。

この戦略は、「出生率回復」と「転出超過の抑制」の2つを共通目標として掲げ、「広島都市圏で一番の子育て支援」、「子育て世代が安心して暮らせるまちの整備」、「ふるさととして子育てできるまちづくり」、「町内外に向けたまちの魅力発信」の4つの基本目標とそれに関係した重要業績評価指標を設定し、関係施策を推進することで、「子育て世代が居住を選択するまち」を目指すものです。

当計画はまだ始まったばかりで、年度実績等も算定できないことから、本日は計画の説明が中心となりますが、この度初めて委員をお願いした方におかれましては新しい視点で、昨年度から引き続いて委員をお願いしている方におかれましては再確認の視点で、それぞれご意見やアイデアをいただければ幸いです。

それでは本日はよろしく願いいたします。

3) 出席者紹介

○政策企画課長

続きまして、委員の紹介をさせていただきます。「委員名簿」の順に紹介させていただきます。一言、簡単に、自己紹介をお願いいたします。

○中村委員

府中町商工会副会長並びに女性部長を兼務しております中村と申します。府中町の周りの商工の発展を願って、日々商工会の皆さんと一緒に話合いを続けております。よろしく願いいたします。

○山田委員

県庁地域力創造課長の山田と申します。市町の皆さんと県との連携の支援が一つの業務でございますが、もう一方、県外からの移住促進という業務を担当しております。本日はそういう観点から色々と意見を述べさせていただきます。よろしく願いいたします。

○上之園委員

比治山大学の上之園と申します。大学では教員養成と保育者養成にかかわっております。府中町の住民の一人でもあるので、そのような立場から意見を述べさせていただきますことができればと思います。よろしく願いいたします。

○八谷委員

広島銀行の八谷と申します。この4月より安芸府中支店の配属となりました。不慣れでご迷惑をおかけするかもしれませんが、金融機関を代表して参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

○原田委員

マツダ労働組合の執行委員長をしております原田と申します。前期に引き続き今期も委員としてお世話になります。一企業として、地域とどう関わっていくかということも企業としても大事なところと思っていますので、この会議を通じて何か意見ができればと思います。よろしくお願いいたします。

○政策企画課長

益村委員でございますが、本日欠席の連絡をいただいております。

○堀部委員

児童センターハッピーズの堀部と申します。遊びに来られる親子の皆さん、小・中・高校生の皆さんが元気に大きくなれるようにということで、日々頑張っております。よろしくお願いいたします。

○田中委員

民生主任児童委員の田中と申します。こういう場が初めてなもので、緊張をしていますが、どんなことをするのかとワクワクもしております。よろしくお願いいたします。

○森岡委員

子育てサークルわっふる代表の森岡と申します。こちらに関わらせていただきはじめた際には、それぞれ幼稚園と赤ちゃんだった娘二人もいつのまにか小学校2年生と幼稚園年長になり、子育てを現役でやっていく中で思うところも色々出てきましたので、そのあたりをこちらの会議で活かしていけたらと思っています。よろしくお願いいたします。

○政策企画課長

町出席者の紹介（町長・副町長・教育長紹介）

他の町職員につきましては、時間の関係上、席次表にてご確認いただくようお願いいたします。

4) 座長選出

○政策企画課長

続いて、座長の選出にまいります。

座長は、委員の互選により選任することとなっておりますが、どなたか、ご意見がございましたらお願いいたします。

○堀部委員

学識経験者であり、府中町の施策にも携わっておられる上之園先生にお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

○政策企画課長

ただいま、上之園委員を座長に推薦する提案がございましたが、よろしいでしょうか。

(各委員、拍手にて賛同)

○政策企画課長

それでは、上之園委員に座長をお願いいたします。

どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、座長が選出されましたので、ここからは、座長に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

(進行役交代)

○座長（上之園委員）

座長にご指名をいただきました、上之園でございます。よろしくをお願いいたします。

それぞれの分野でご活躍されておられる皆さんから、忌憚のないご意見をお出しただけのように議事進行に努めてまいりたいと思います。ただ、かなり人数は減ったとはいえ、新型コロナウイルス感染症対策も必要ですので、可能な限り会議時間の短縮に努めたいと考えています。皆様のご協力のほど、どうぞよろしくをお願いいたします。

5) 資料説明・意見交換

議事：府中町人口ビジョン（2021年改訂版）及び第2期府中町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

(資料1～3を一括して事務局から説明)

○座長（上之園委員）

では、本日の議題である、資料1から資料3まで、人口ビジョンと第2期戦略の取り組みにつきまして、ご出席いただいた皆様からのご意見等を幅広くお聞きしたいと思います。

先程佐藤町長からお話がありましたように、今回は初回ということで成果と課題というような内容ではございませんので、ご自由にご意見等を言っていただき、併せて、ご質問等がありましたらご担当の方々が出席されておりますので、お答えいただきたいと思います。それでは何かご意見等ございますか。

○森岡委員

2点ほど確認したいことがあります。

1点目が、資料3の「重要業績評価指標」欄の一番下「まち記者による情

報発信回数」のところですが、友人がまち記者をやっております、自身も2年前までまち記者をさせていただいていたのですが、令和元年度現状値が2回となっていますが、Instagramではもっと発信をされているのではないかと思います。「府中町まち記者」のハッシュタグで検索するとずらっと出てきますし、令和2年度も確認すると投稿されているものがありました。何を基準にした回数なのかということをお聞きしたいです。

2点目が、資料3の「広島都市圏で一番の子育て支援」の中で、『「授業がよく分かる」と答える児童の割合』という数値目標が出ていますが、第1期から数値目標の指標として大きく変わったところだと思います。なるべく多くの子どもをとりこぼさないという気概が見えてすごく良い指標だと思いました。それに関連して、資料2の11ページ、基本目標1「広島都市圏で一番の子育て支援」のところで、「具体的な施策と重要業績評価指標」の「③AIを活用して様々なリスクを抱える子どもを多面的・継続的に見守る仕組みを構築するとともに、最適な予防的支援を行います」とありますが、これもすごく良いなと思います。そこで、ここでの「様々なリスクを抱える子ども」というのは具体的にどのような子どもを想定されているのかお聞きしたいです。

というのも、例えば、ディスレクシア（識字障害）を持つお子さんがクラスの中で3～4人はいると言われていています。専門的なところはわかりませんが、文字を見たときに二重に見えたりぼやけて見えたりとか、音声や絵・写真を見るときには問題がなくても、字を見るのだけが難しいといった障害のようで、そういったお子さんに対してタブレットで写真を撮って音声で文字情報を聞くというやり方があると耳にしたことがあります。

また、アジア圏から家族で引っ越してきている友人がおり、お子さんが来年小学校に上がるのですが、日本語が第2言語になるので、日常会話は習得できていても学習言語と言われる、学校で使われる特別な日本語（例えば、起立・礼など）の習得で外国ルーツのお子さんがつまずいてしまうということがあり、愛知県豊橋市ではそのサポートをされているとお話を聞いたことがあります。府中町も少ないけれど、外国から引っ越して来られている方もちょっとずつ増えているというのを聞いたことがあります、外国ルーツのお子さんもリスクを抱える子どもの一人になるのかなと個人的には思っています。どのようなお子さんを想定されているのかをお聞きしたいです。

○政策企画課長

まず、「まち記者による情報発信回数」ですが、まち記者の方にInstagram、SNS等で情報発信をしていただく回数ではなく、そこから発信したものが広報ふちゅうに取り上げられたものに対して回数1カウントとしております。

次に、「リスクを抱える子ども」としてどのような子どもを想定しているかということですが、開発中ではございますが、ネグレクト等家庭での問題が

顕在化して不登校になってしまうとか、そういった問題が表に出てくる前の状態で、学校での情報や福祉の持っている情報など、それぞれ様々な情報を合わせてAIで分析して、予防的支援をできないかということでモデル事業として今やっているところでございます。

○教育長

追加といたしまして、外国語を母語に持つ子どもの日本語指導のご質問がございました。本町では、学校での日本語指導とともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに対応していただき、学校と家庭でのこまめな日本語指導等により学習障害にならないよう配慮をしている次第でございます。

○森岡委員

全部日本語なので、どんな支援があるかを外国から来た方は検索ができず、折角あっても届いていないという状況があります。私の友人の場合は私が調べて教えることができましたが、日本人とのつながりがない人たちは孤立してサポートにたどり着けずに終わってしまいます。すごく良い取り組みをされているので、できれば直接ご本人にもっと届いたら良いと思います。別件で教育委員会に行った際にも教育相談にどんどん来てくださいと、すごく受け入れてくれる感じで言うてくださって心強かったので、日本人はもちろん、外国人の皆さんたちにももっと相談に来て良いよというのが届いたら良いなと思います。折角良い取り組みなので、そこで何か工夫ができれば良いのではないかと思いました。

○座長（上之園委員）

必要とされる人・必要とされる支援がわかるということですね。今、子育てに関わっている方からご発言がありましたが、田中委員いかがでしょうか。

○田中委員

今日の午前中に中央小に伺って、運営会議に参加させていただきました。コロナで全然学校の方にも伺えなくて、久々に見学をさせていただきましたが、外国人の方も普通クラスにいらっしやって、わからないところは特別クラスの方で先生が教えられているというふうに色々と配慮されていました。

また、授業がついていけない子どもたちに対しても、先生たちがこと細かに勉強を教えていましたので、学校の方に行かれても安心できるかなと思いました。そういったことがもっと表に出てきてくれたら、お母さん方も安心できるのかなと思いました。

○座長（上之園委員）

見に行くと手厚くされているというのがわかるけれど、行かなければよくわからないということですね。堀部委員はいかがでしょうか。

○堀部委員

やはり今コロナの関係で中々接触が難しいというか、行けないという方も

多かったんですね。去年になります、ハッピーズの方に遊びに来られていた親子さんの中に、外国で生活されている日本人の方で、ちょうどコロナで大変になる前に、たまたまお母さんと子どもさんが日本に帰って来られていて、その後ご主人だけ帰って来られなくなったという状況の方がいらっしやいました。ただ、その後またコロナが落ち着き次第、仕事で外国へ帰るということもあり、すごく悩んでいらっしやったのが、子どもが幼稚園に行く年齢になるけれども、中々受け入れてくれるところがないというのがありまして、3～4月に入っていて入園も締め切っているというのもあったと思うのですが、もし入るとしたら入学金・授業料全て払ってもらわなければならないと言われていたみたいで、でもいつ帰れるかわからない、すぐ帰れるかもしれないという状況で、そのために全部払うのはどうなのかとお母さんがすごく悩んでいらっしやいました。ハッピーズみたいなみんなが集まる場所に遊びに来られたらどうですかとご案内しましたが、中々人との触れ合いを子どもができないということを悩んでいらっしやいました。コロナのせいもあって仕方がない面もあったのかなと思いますが、もうちょっとその辺も相談できる場所があればよかったのかなと思いました。保育園も一杯で入れてもらえないというものもあったので、すごく悩んでいらっしやっていて、そういう方々を私たちもどこへ相談に行ってもらえば良いのか悩みまして、難しいなということがありました。その方もその後何回かは遊びに来られたこともありました、中々続かなかったのか、外国に帰られたのか、そのままになってしまったのが心残りでした。もっと相談できる場所をはっきりできたら良いなと私たちも思っています。

○座長（上之園委員）

特に就学前の不安定な状況の方の相談体制のご要望ということですが、そういう相談体制が広く周知はされていないけれど実施されているというのがあればご紹介いただければと思います。

○福祉保健部長

就学前のお子さんになるかと思いますが、母子保健の関係ではネウボラふちゅうを担当している母子保健係にまず来ていただいて事情を話していただければと思います。その他家庭の一般的なことに関しましては、子育て支援課に子ども家庭総合支援拠点事業として、専門職を5名置いて様々な相談に対応しておりますので、そちらに行ってくださいでもよろしいですし、先程幼稚園か保育園かということで、何歳児の方かわかりませんが、保育コンシェルジュと同じように利用者支援ということで様々な子育て支援についてご案内できる支援員も子育て支援課に配置しておりますので、ご相談いただければ、その人その人に合った支援がご案内できます。コロナの関係で、保育園の方も園庭開放が中々できていなかったということもあるかと思いますが、まずは役場の子育て支援課の母子保健係・保育係・こども家庭係で、そ

の方に合った支援のご案内や日々ご相談をお受けできますので、是非ご案内していただければと思います。

○座長（上之園委員）

必要とされる方が必要な支援を受けられることをどのように伝えていくか、また、それぞれのサークルの代表の方が窓口になるにしても、その方々も知っておくというあたりが、3人の方に共通なことかと思います。府中町で子育てに向き合っておられる方々のお話を伺ってきましたので、商工会を通して府中町に直接かかわり、色々感じておられる中村委員いかがでしょうか。

○中村委員

今は府中町の子どもの支援についてお話しされていましたが、府中町の行政の方たちも非常に子どもたちの支援、教育に関しても色々なものに関してかなりやっつけていただいていることを見聞きしております。

今度は商工の部でお話をさせていただきます。

府中町に滞在する人が少なくなっていると聞いておりますけれども、働き方改革でリモートやテレワークで都市圏にいる人が広島の実家に帰ってテレワークをしていると聞いています。段々と働き方改革で、コロナ禍でそうしているだけではなく、これからの働き方で色々な場所でも会社のオフィスに行かなくても自宅のできるような環境がもっと増えるのではないかと思います。これは私たちにとってもありがたいことで、若い人たちが大学を卒業して都市圏に行ってテレワークされるとなると地元で優先的に帰られるということもあります。それで人が増えるというわけではないですが、若者がちょっとずつ帰ってくるような気がします。

商売のことにしましては、コロナで非常に大変さを強いられている商工の方たちもたくさんいますし、親の収入が減ってくると子どもの教育なり色々な意味で大変さが増していきます。商工の部分だけではないですけれども、行政とタッグして商売をしっかりと支援していただくということを願っております。今は商工会に入部される方と、商売をやめられる方が同じくらいの数いらっしゃいます。これからはもっと厳しくなると考えており、今は路面店がまだたくさんありますが、5年後・10年後となると今のままの店があるのだろうかという危機感を感じています。商売の方もコロナの中、非常に努力されて一生懸命やられていてもそれに追いついていけない状況で、それでも頑張っておられる方がたくさんいらっしゃいますので、商工会で応援していきたいと思っております。府中町の方は是非とも商売されている府中町の中で購買していただきたいと願ってやみません。

JR駅も2駅あり、アクセスが良いということで府中町のまち並みは非常に活気づいています。それが商売につながるかというとそうではなく、子どもたちの教育に関しても広島市に非常に近いので、市内の方に行ったり、県内1時間以内に行ける選択肢をたくさん持っています。そういう意味で府中

町は皆さんに好まれて、若い方がここに住んで、中学高校くらいまでは住んでほしいなというのをよく聞いています。

あとは、教育格差もだんだんとシビアな世界になっていくとは思いますが、府中町が子どもたちの支援を掲げているというのは非常にありがたく、ぜひとも続けてやっていただきたいと思います。

質問なのですが、資料1の23ページに「府中町が企業や大学等を誘致して転出を防ぐことは現実的ではないと考えられます」とありますが、府中町は5万人住んでおり、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校までありますが、そこに大学もあれば、町全体が活気づけられると思います。若い人たちが増えると、町全体が明るくなり、購買力もあるので、色々な意味でプラスになると思います。庄原市は約3万人弱ですが、県立の大学が誘致されました。それは場所が広いからなのでしょう。府中町は大学を誘致するだけの土地がないのでしょうか。アクセスも良いですし、大学や専門学校があれば、府中町は幼稚園から大学まで全部あるということで、もっと目線が変わってくるような気がします。これから5年後・10年後はわかりませんが、折角人口があるまちなので、活用ができないものかと思っています。

また、府中町には5万人いるということで、町立病院が欲しいと思います。今はマツダ病院が担っているということですが、一つのまちとして入院できる大きな総合病院があればと思います。以前、コロナの関係で、中々受け入れ先がなくて救急車で搬送できないということがありました。住みよいまちづくりとしては、身近なところで受け入れてくれるところとして、一つ町立病院があればと思っています。これから目指す40年後の府中町を考えますと、色々なものをバランス的に考えて、教育に関しては大学・専門学校を一つ、病院も一つあればすごいまちづくりになると思います。

○町長

将来的な課題としてご提起いただいた2点の件についてお話いたします。

資料1の23ページにあるのは、府中町の置かれているポジションというのが広島都市圏で人口を維持していこうという人口ビジョンから地方創生の方につなぐときには、戦略を重点的に絞り込もうという観点から、経営資源を個に集中していきたいという意味で、大学や企業を誘致して転出を防ぐというのは第一義的に施策として打っていくにはちょっと難しいのかという意味合いを踏まえた文章だと思いますけれども、現実には、企業でいえば工場を府中町に誘致するというだけではなく、オフィスを貸しオフィス等で展開していくということで、産業・人口を確保していくという手もありますので、全く否定をしているわけではなく、取り組めることは取り組んでいきたいと思っています。

ただ、大学については、面積の関係で町では難しいですし、最高学府の学問をする大学がすべての市町村に必ずある必要はないと考えています。

2点目の町立病院については、病院、医療というのは広島県の方で医療体制を整備していく中で課題を整理していくのだらうと思います。特に公立病院を作ってやっていく、本町は広島都市圏にあるので、医療機関が身近なところにたくさんあるわけです。一時的にコロナの関係で入院が困難とか救急搬送の際に受け入れ先がなくて救急車が搬送するのが出発できずにずっとという事例もあるものの、できるだけ短い時間で搬送できるよう努力しており、長いスパンで考えるとどうかわかりませんが、現状で公立病院を新たに作っていくというのは少し難しいという判断をしております。府中町内では民間の良質な医療機関が数多くありますし、身近なところでも公立病院、国立病院がありますので、都市圏の中で生活が十分できれば良いかなというふうに思っております。

○座長（上之園委員）

ここまで、実際に府中町にお住みになっていて子育てや商工会などの町の方々と直接関わっておられる方のお話をお伺いしたので、府中町内にある企業・金融というお立場からお話を伺いたいと思います。

まず、原田委員の方から府中町にある企業ということでお話いただきたいと思います。

○原田委員

府中町は一企業とはいえマツダという大きい企業がある中で、先程言われておりましたけれども、府中町が企業や大学等を誘致して云々の話の中で、やはり今ある企業の中で、マツダがブランド力を上げて自然にマツダに就職したいというふうに力を上げていかなければならないと感じております。そうならば＝近くに住みたい＝府中町という順番をしっかりと回していけば、良い方向に行くのかなと思っております。その中でやはり子育て・教育というのは非常に重要な施策なのかなと思っております。それもしっかりと強化していただければ、自ずと府中町全体が盛り上がってくるのかなと思っております。

自宅の近くに祇園のイオンモールがあるのですけれども、自分の娘も何か府中町のイオンモールの方へ来たいと言うので、なにか魅力があるのかなと感じています。近くにあるのにわざわざ府中町の方に行きたいというような魅力を引き出すようなまちづくりをしっかりといただければ良いのかと思っております。マツダという大きい企業も府中町を盛り上げるためにも企業としてもブランド力を上げて、自然に若者が集まってくるように、また、いわゆる人口減少という形で将来は外国人労働者を雇うということになりますので、そういうインフラも整えていければ良いかなと、皆さんの話を聞きながらそう感じておりました。

○座長（上之園委員）

今ある企業がさらに魅力的になって府中町にじっくり住みたい、将来的に外国の方も府中町で家族と住むことができるというような受け入れ方は、最

初のお話ともかなりリンクしてくるのではないかと思います。それでは金融の面から八谷委員はいかがでしょう。

○八谷委員

資料2の基本目標2の都市基盤の整備ということで、金融機関の立場から申し上げますと、災害等の危険性がある区域はできるだけ早急に削減していき、基盤を整備していただいて住環境を整えるということで、これは事例なのですが、先日レッドゾーンに関しての融資の案件がありましたが、そうなるとうし手の側から考えると、非常に出しづらいということがありましたので、色々な兼ね合いがあるので大変だとは思いますが、できるだけスピーディーにそういった地域の削減をお願い出来ればと思います。

ただ、住みやすくなると賃料や地価が上がっていきます。これは、転入者が来やすい環境がちょっと下がってってしまう可能性があるのですが、個人的な見解ですが、新たに府中町に越して来られる方に対する直接・間接支援策の策定もご検討いただければ転入者の増加につながっていく可能性があるのかなと考えます。

2点目として、基本目標4の魅力発信というところで、一つお尋ねしたいのですが、魅力の発信先は広島県全域という認識でよろしいのでしょうか。

○政策企画課長

ホームページ等で誰でも見られる状況ですので、県内だけに限ったものではありません。

○八谷委員

KPIで数値目標を上げるのであれば、金融機関で金融サービスという商品を新たに出していくときは、エリアやターゲットをどこに絞ったものなのかということがひとつ背景にあります。県外や備後からの転入者を拒んでいるわけではないでしょうが、広島都市圏からの転入者をおそらく町としてはお考えなのではないかと思いますので、ターゲットをある程度絞って発信していくということも大切であろうし、それらの方からの認知度が最も重要な数値なのではないかと思います。備後の方から府中町に住むのかということと中々現実的に少ないでしょうから、それよりも呉方面や広島市内の奥の方から住んでいただくという方が現実的なのかなと思い、ご意見として申し上げました。

○座長（上之園委員）

これまで、お一人ずつお話をさせていただきましたが、ここからはまず私が話をして、最後に県の山田委員にご意見と総括をしていただけたらと思います。

教育の立場からひとつお話をさせていただきます。今の大学生や若い方はニュースと言っても、テレビや新聞を見ないでSNSがほとんどのようです。例えば「街の住み心地ランキング1位」が府中町だというのはスマホを開く

とポンと出てくるようです。私が府中町に住んでいることを知っている学生たちが「1位ですね」と声をかけてきます。広島県のランキング1位を検索するとすぐに情報が飛び込んでくるSNSの影響力を実感しています。

教育のことですが、本日の新聞にコミュニティースクールの設置について中国地方は何%かという記事があり、広島県全体としては30%未満でした。府中町内の小中学校は100%で、それが当たり前とと思っていましたが、県内では特別高い地域なんだと改めて驚きました。義務教育9年間をどこどのように過ごすかということとはとても大きなことだと思います。県内の各市町の公立学校で、9年間を見通した教育やICTを使った教育を宣伝をしている場合も、実際はパイロット校や一部の指定区での範囲の場合もあるようです。府中町の場合、9年間の学びやICTの教育についてモデル校で実施されている段階なのか、町内であればどこでも実施されているのか、そのあたりを少し教えていただければと思います。

○教育長

府中町には小学校5校、中学校2校がございます。各中学校区で小学校と中学校が連携をしての教員研修を通して生徒指導や学力指導等、学力の向上に向けた研究を進めています。それはまずは、「府中町で学んでよかった」と児童生徒に思っただけのこと、「府中町で子育てをしてよかった」と保護者の方に思っただけということが第一でございます。そのために、町内すべての学校でレベルを上げるための取組を進めております。義務教育の9年間を小学校中学校の連携を深めることにより、どこの学区で学んでも教育効果を上げていただけるということを第一に考えております。

また、コミュニティースクールにつきましては、府中町では、保護者の皆様方の学校に対する学校愛といいましようか地域愛といいましようか、大変昔から強い地域でございまして、PTA活動等も盛んな地域でございます。その学校愛・地域愛をどのように学校に結び付け、また、学校をどのように地域に開いて展開するかということで、府中町では100%コミュニティースクールを実施をしている次第でございます。

ICTの活用につきましてのご質問がございました。ICTにつきましては今年度4月からGIGAスクール構想で、すべての子どもたちに一人1端末を提供するという環境整備を進めております。その中で、課題は子どもたちのICTスキル以上に、それを指導する教員のスキルが大きな影響力を持ちます。府中町では3年間の目標を設定し、すべての教職員がICTを使った教育をできるようになる取組とともに、ICT活用の教育によって、より学力向上のための効果が出るように、また不登校の子どもたちもICTの活用によって少しでも学校での学習に参加できるようなど様々な場面で、ICT教育の活用について研究を進めていく次第でございます。

○座長（上之園委員）

どこかの学校というのではなく、町内の学校全てということが分かりました。安心して教育ができるとともに、町内であればどこでも質の高い教育を受けられることを発信していくのも、9年間続けて住んでもらうことにつながるのかなと思います。

これまで色々ご意見をいただきました。それでは、最後のご意見と総括として、広島県の山田委員よろしく願いいたします。

○山田委員

県内の各市町の地方創生の取り組みを支援させていただいている立場から少しお話をさせていただきたいと思います。人口減少や高齢化というのは国全体の動向で、東京でも近い将来の大きな高齢化というのは非常に懸念されているところですが、そういう中であって府中町さんも長期的にはそういうトレンドの中にあるとはいえ、近年においては微増を続けられ、近い将来においても横ばいを維持されるという、こういう推計があるというのは、日々私共は中山間地域の市町さんの非常に厳しい人口の状況を見聞きしておりますので、やはり府中町さんはすごいなとそういった感が改めていたします。それはやはり今日も活発なご議論がありましたように、町民の皆さん、そして町内の関係のある企業の皆さん、そして役場の皆さんのご尽力の賜物であるというふうに思っているところでございます。そして第2期の総合戦略に向けてというのが、ちょうどウィズコロナの時期と重なってくるというのも、これは掲げていらっしゃる「子育て世代が居住を選択するまち」というのに非常に大きな意味を持っているというふうに思っております。我々地方移住の対策を東京の有楽町に相談窓口を置いてやっております、年間4,000件ぐらい相談があるのですけれども、やはりコロナ禍で働き方の価値観が変わったというのは痛切に感じております。それは単にテレワークができるだけの話ではなく、自分の暮らし今までこれしかできないと思っていたけどもっと色んなことができるんじゃないかというこういう気づきがあって、居住地を選ぼうとしておられます。その中で県内の各市町の移住関連施策一覧みたいな冊子を作っているのですが、そういう中で紹介をしたりして、広島都市圏に仕事が見つかって、どこに住もうかなというときに府中町にしましたという方がいらっしゃるんですね。そういうこともありますので、目標を町を上げて目指していらっしゃる、そこに体系的な事業にしっかり取り組まれているというのは大きなアピールポイントになると思います。情報発信のターゲットの話が出ましたけれども、県外でも十分通用するといえますか、ものすごくエッジが効いた情報発信になると思いますし、県外で評価されれば、県内においても府中町すごいらしいとまた人の流れができていくと思いますので、第2期の方針のもと着実に取り組まれていくということを期待しております。どうぞよろしく願いいたします。

○座長（上之園委員）

ほかにご意見ご質問ありましたら挙手をさせていただきますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは貴重なご意見を皆様からいただきまして、ありがとうございました。

今回関わっているのが人口問題ということで、すぐに効果が出る施策というのはなかなか無いというのをお話の中で感じたところですが、これまでの取り組みの成果もやはり随分出ているようです。府中町が「子育て世代が居住を選択するまち」となっていくように、町におかれましては、本日の会議で、委員の皆様からいただいた意見等も参考にさせていただきながら、総合戦略の取り組みを進めていっていただきたいと思います。

最後に、「今後のスケジュール」について、事務局から何かありますか。

○政策企画課長

本日は大変お忙しい中ご参加をいただき、ありがとうございました。次回の会議につきましては、来年の夏頃を予定しております。その際には、令和3年度末時点の検証についてご報告し、ご意見をいただきたいと考えております。なお、本日の会議の議事録を事務局で作成しますので、内容のご確認について、後日改めてご連絡させていただきます。

以上、今後のスケジュールでございました。

6) 閉会

○座長（上之園委員）

それでは、議事を終わりたいと思います。

閉会にあたりまして佐藤町長よりご挨拶を頂きます。

○町長

皆さん、熱心なご議論をいただきまして誠にありがとうございました。貴重なご意見、ご指摘、ご要望を賜りまして、今後の施策にしっかり役立ててまいりたいと思います。

外国の方に対する問題など、我々役所には気が付かないようなことをご指摘いただいて、テーマに挙げていただきありがとうございます。やはり施策というのは、総花的にやることも必要ですけれども、ターゲットを絞って、そこに集中的にやることも必要かと思えます。本町の場合の人口減対策、地方創生については広島都市圏でしっかり頑張ろうということが中心となっていることをご理解いただけたらと思いますし、広島都市圏が繁栄しないとどうにもならないというわけでもありますので、県・都市圏の仲間と一緒に取り組みを頑張っていきたいと思えますのでどうかよろしく願いいたします。

本日委員の皆様からいただいたご意見は、しっかりと参考にして実効性のある取り組みとしてまいりたいと思います。また、先ほど言いましたけれど

も、後日でも構いませんので、ご意見やご質問等、ご遠慮なく事務局宛にお寄せいただければと存じます。

委員の皆様におかれましては、任期が2年となっておりますので、引き続き、地方創生に向けて、お力をお貸しいただきたいと思っておりますので、今後とも、よろしく願い申し上げます、閉会のあいさつといたします。

本日は誠にありがとうございました。

○座長（上之園委員）

本日は、皆様ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の会議を閉会いたします。

大変お疲れさまでございました。

（午後4時30分閉会）